

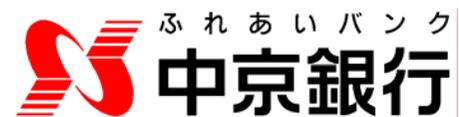
“ひたむき中京・絆”計画

～「お客さまが“一番に相談したい銀行”」を目指して～



第4回企業説明会

2008年6月9日



目次

<u>当行の現状</u>	
1. 07年度 業績概要	... 3
2. 貸出金の状況	... 4
3. 信用コストの状況	... 6
4. 不良債権の状況	... 7
5. 有価証券の状況	... 8
6. 非金利収益の状況	... 10
7. 経費の状況	... 11
8. バーゼル への対応	... 12
<u>第14次長計 “ひたむき中京・絆”計画</u>	
1. 第13次長期経営計画の総括	... 14
2. 第14次長期経営計画の概要	... 15
3. 計数計画	... 17
4. 主要テーマ	... 19
5. 戦略マップ	... 24
<u>ご参考資料</u>	
当行の沿革・プロフィール	... 26
当行の収益実績	... 27
主要勘定残高および利回り	... 28
資産・負債残高の推移	... 29
08年度業績見込み	... 30
当地区における当行のシェア	... 31
MUFGとの連携	... 32
東海地区の経済規模	... 33
最近の動向	... 34

. 当行の現状

1.07年度 業績概要

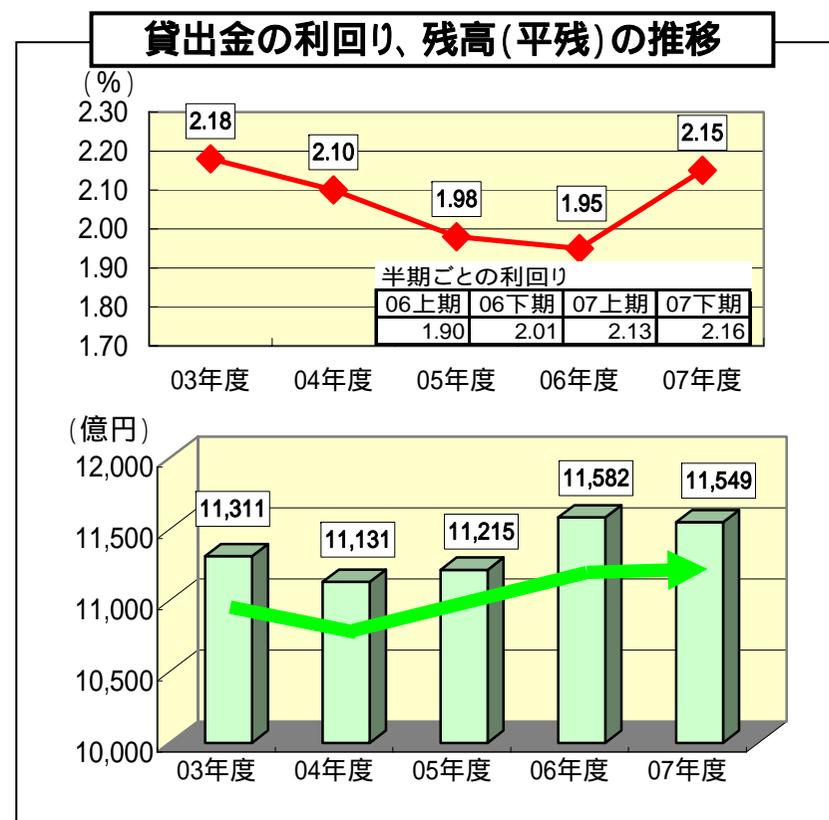
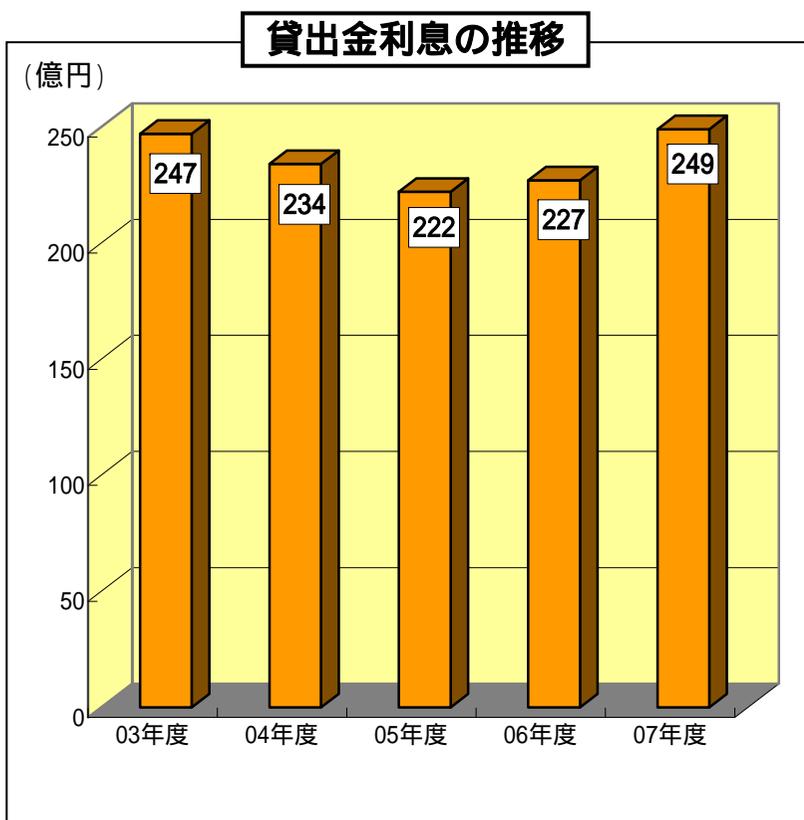
コア業務純益は、人員増強に伴う経費増を粗利益の増加分で補えず前年比横ばい
 当期純利益は、前年度は戻入益を計上した信用コストが、07年度は繰入となった
 こと等から、過去最高益の前年比17億円の減益

(億円)

単体	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	前年比
コア業務粗利益	308	295	289	284	286	2
資金利益	283	271	265	259	259	0
役務取引等損益	24	24	27	26	25	1
経費(除く臨時処理分)	202	199	202	205	208	3
コア業務純益	106	96	86	78	78	0
一般貸倒引当金繰入	23	37	11	-	3	3
業務純益	90	135	96	70	77	7
臨時損益	44	52	12	0	24	24
不良債権処理額	48	62	18	0	21	21
経常利益	46	83	84	69	53	16
特別損益	7	5	10	2	1	3
一般貸倒引当金取崩	-	-	-	8	-	8
不良債権処理額	-	-	-	6	-	6
当期純利益	30	46	39	56	39	17

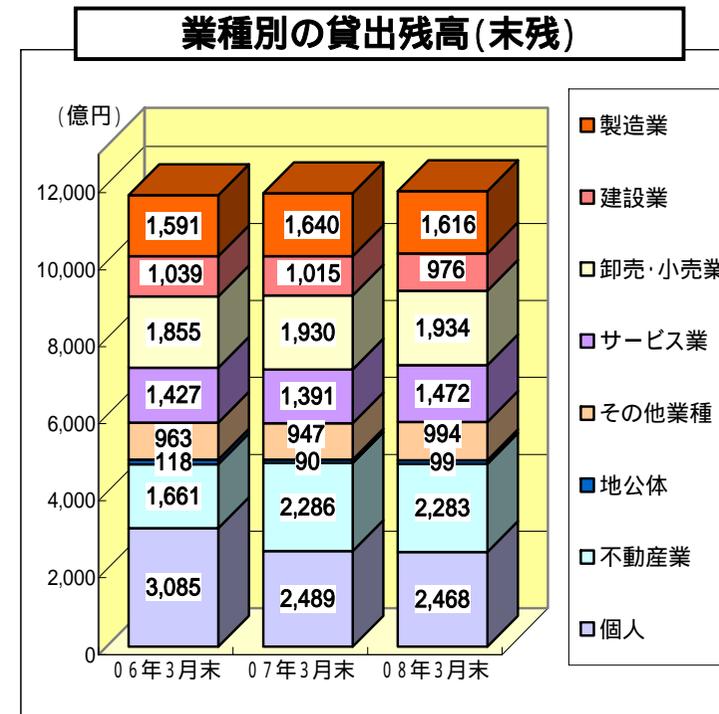
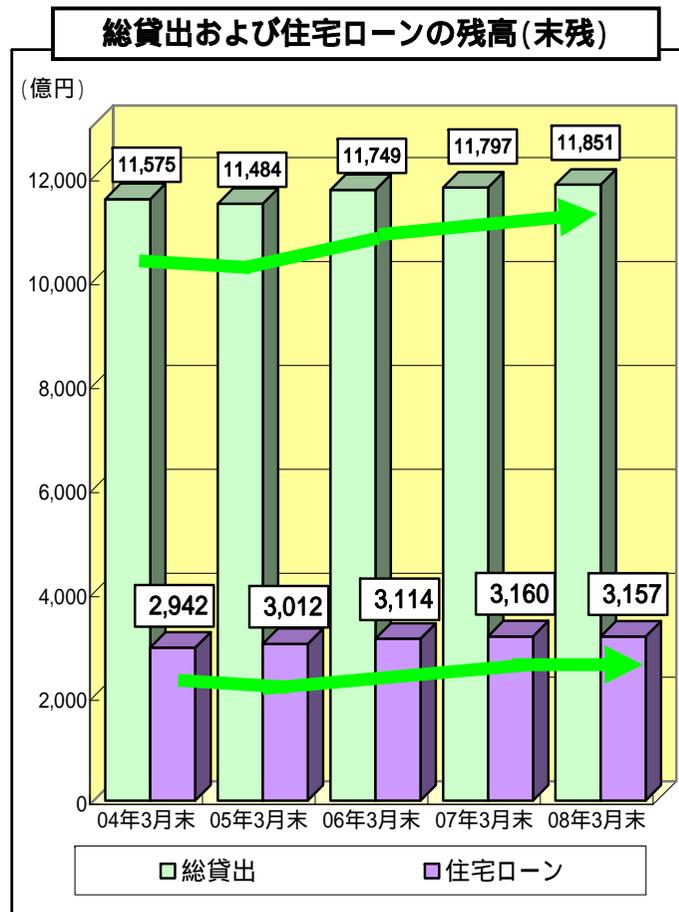
2. 貸出金の状況～ 貸出金利息

利回りは、06年度の2度にわたる短プラ引上げの効果により前年比0.2%の改善
2度の短プラ引上げ効果は、07年度でほぼ浸透



2. 貸出金の状況 ~ 残高推移・業種別残高

貸出残高は前年比微増、住宅ローンは前年比横ばい
業種別の内訳について前年とほぼ変わらず

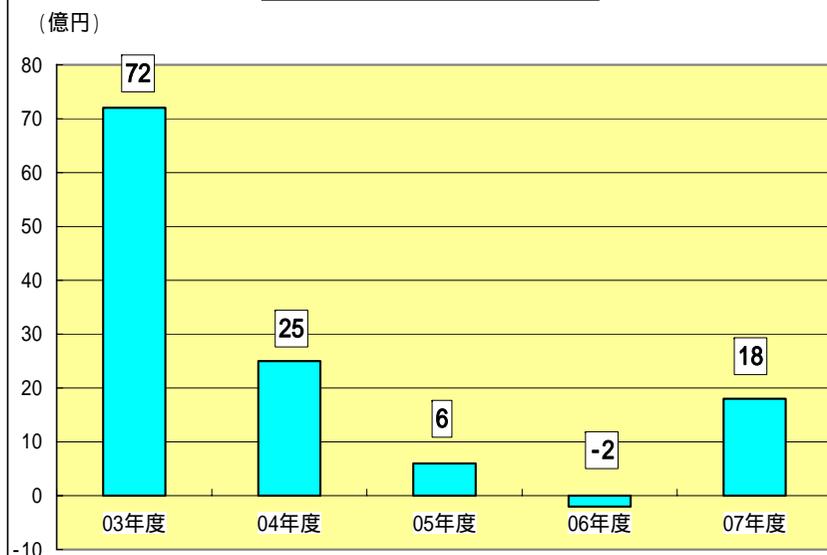


- (注1) 不動産業には個人の不動産賃貸業を含む
 ~ 08年3月末 不動産業 2,283億円(内 個人の不動産賃貸業 1,035億円)
- (注2) 06年3月末 07年3月末の不動産業の増加分(625億円)のうち、487億円は
 個人から不動産業に業種変更したことによるもの

3. 信用コストの状況

信用コストは06年度の戻入益から、07年度は信用コスト率で0.15%に

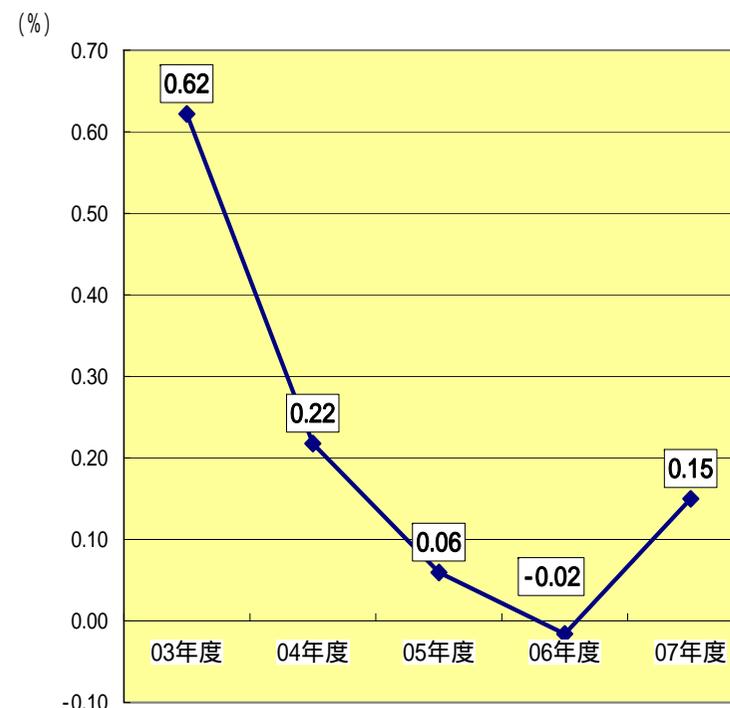
信用コストの推移



< 信用コストの状況 >

	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度
不良債権処理額	48	62	18	6	21
一般貸倒引当金繰入額	23	37	11	8	3
信用コスト	72	25	6	2	18

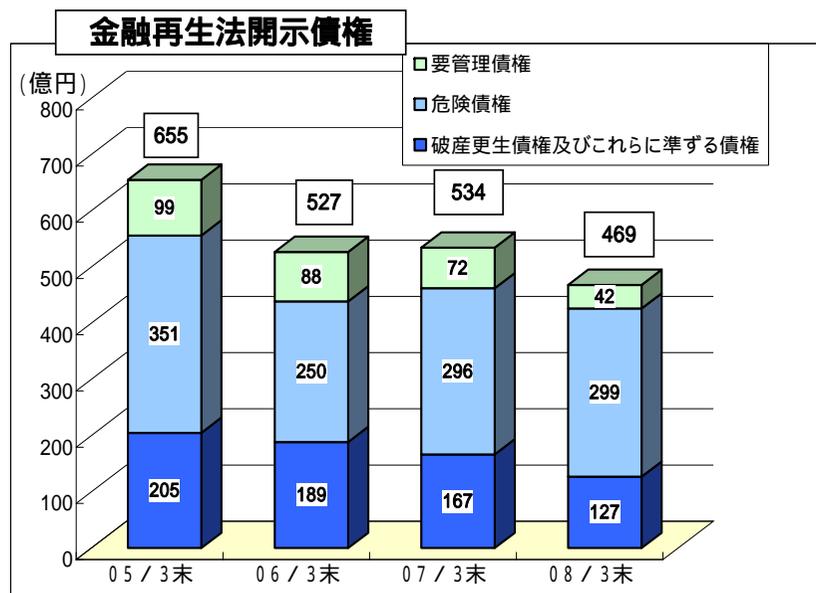
信用コスト率の推移



信用コスト率 = 信用コスト ÷ 貸出金残高

4. 不良債権の状況

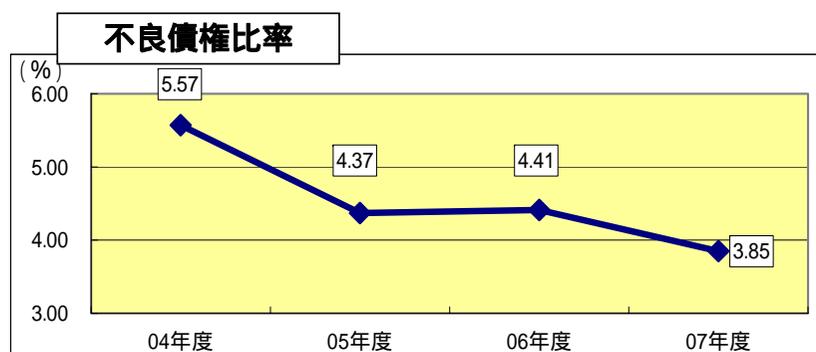
開示債権額は前年比減少、不良債権比率は3%台に



[開示債権額]
469億円(前年比 65億円)

[総与信に占める割合]
3.85%(前年比 0.56%)

[保全率]
86.37%(前年比 + 2.42%)

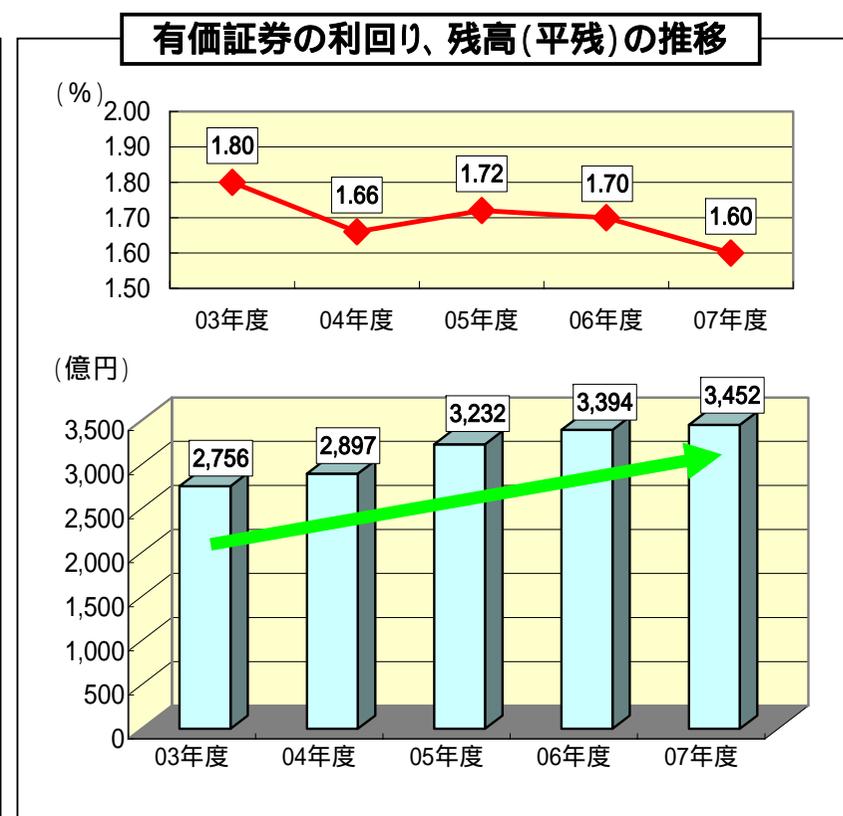
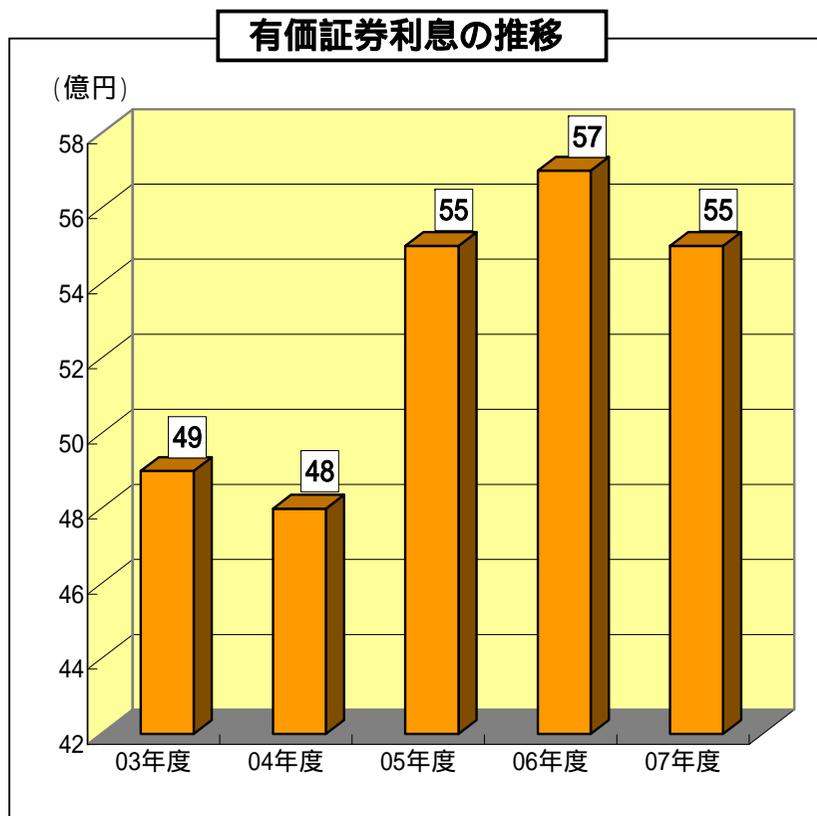


< 開示債権の増減実績 >

	(億円)					
	05/3	06/3	06/3	07/3	07/3	08/3
金融再生法開示債権(期初残高)		655		527		534
新規発生		83		149		108
ランクアップ		81		15		40
回収等		69		59		93
オフバランス化		62		67		40
金融再生法開示債権(期末残高)		527		534		469

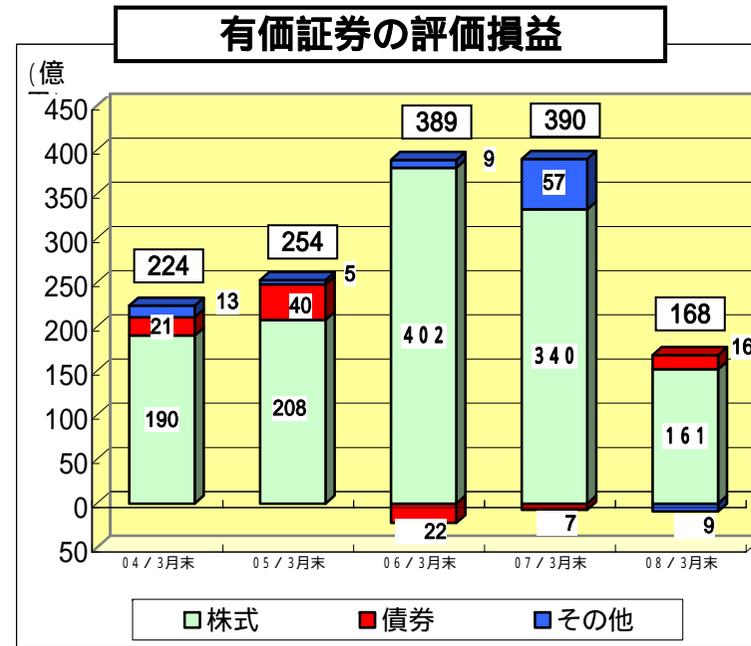
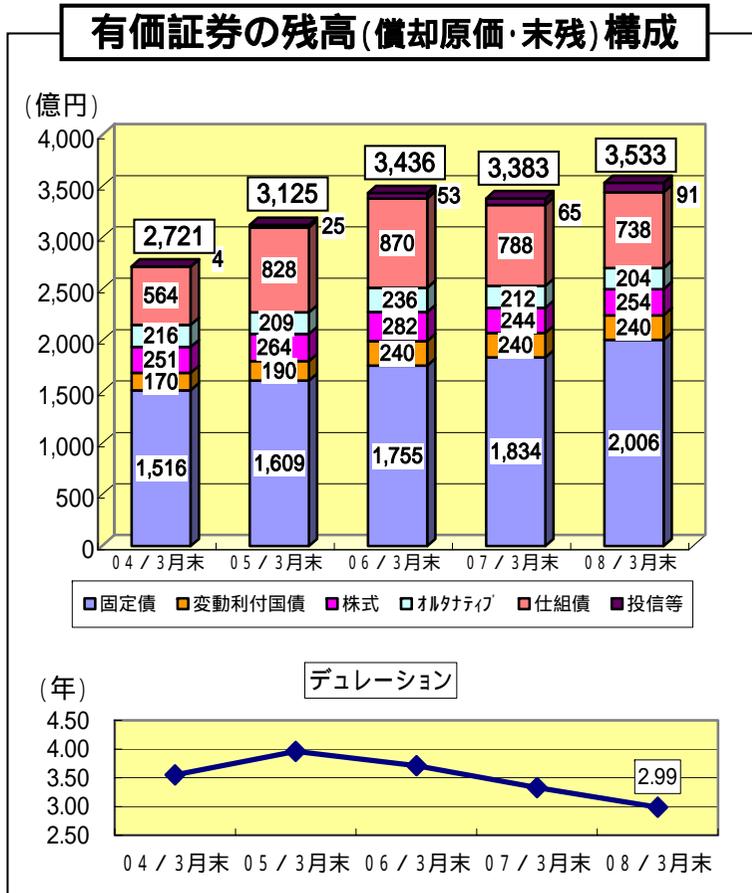
5. 有価証券の状況～ 有価証券利息

有価証券はドル債の残高減少と投信受取配当の減少により、利回り低下



5. 有価証券の状況 ~ 種類別残高・評価損益

固定債への投資により残高は増加するも、デュレーションは短期化
株式相場下落により、評価益は減少

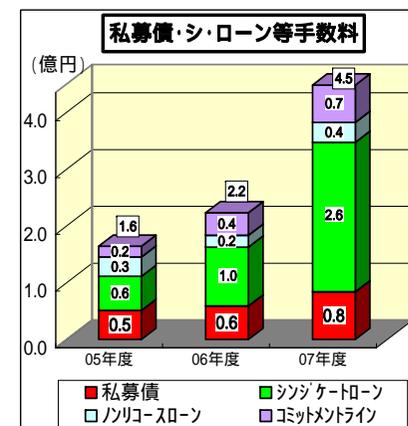
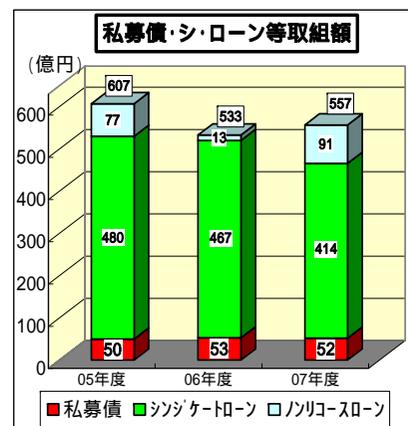
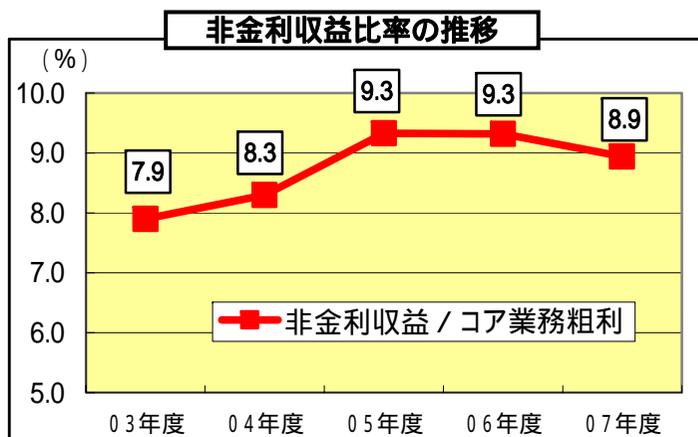
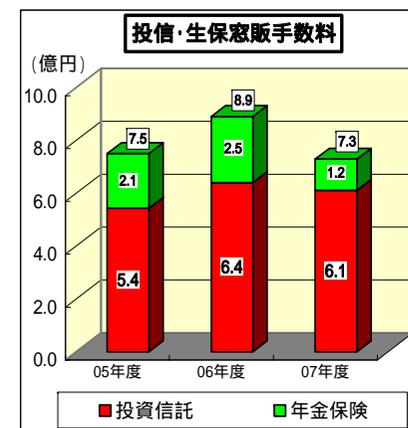
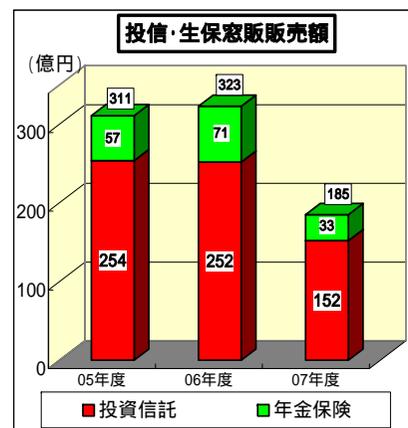
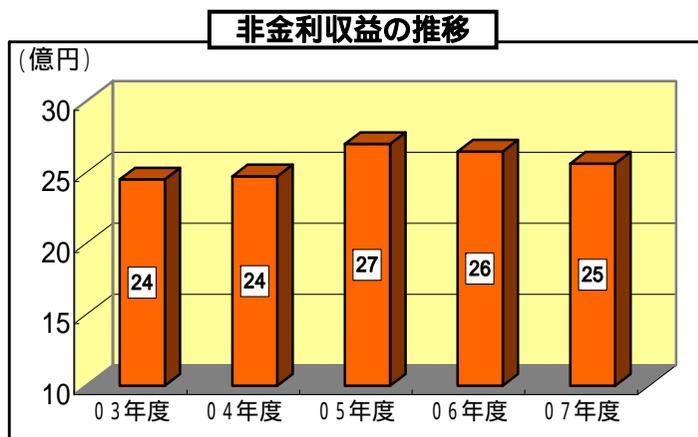


「その他」証券の評価損益内訳 (単位: 億円)

	評価損益			残高 08年3月末
	07年3月末	08年3月末	前年比	
その他	57	9	66	926
外債	15	19	4	696
J-REIT	74	23	51	49
受益証券	2	13	11	181

6. 非金利収益の状況

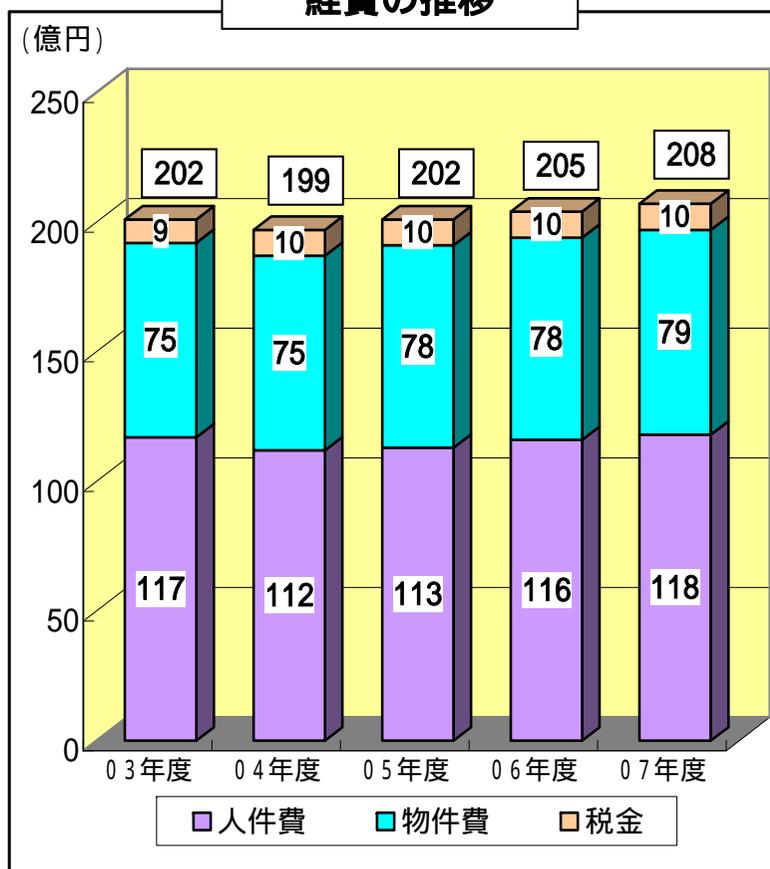
シ・ローン手数料が大きく増加した一方で、投信・保険手数料が減少
金融商品取引法施行に伴う販売体制整備を優先したことや、相場自体が低迷したこと
などで、投信・保険の販売額が落ち込んだことが主因



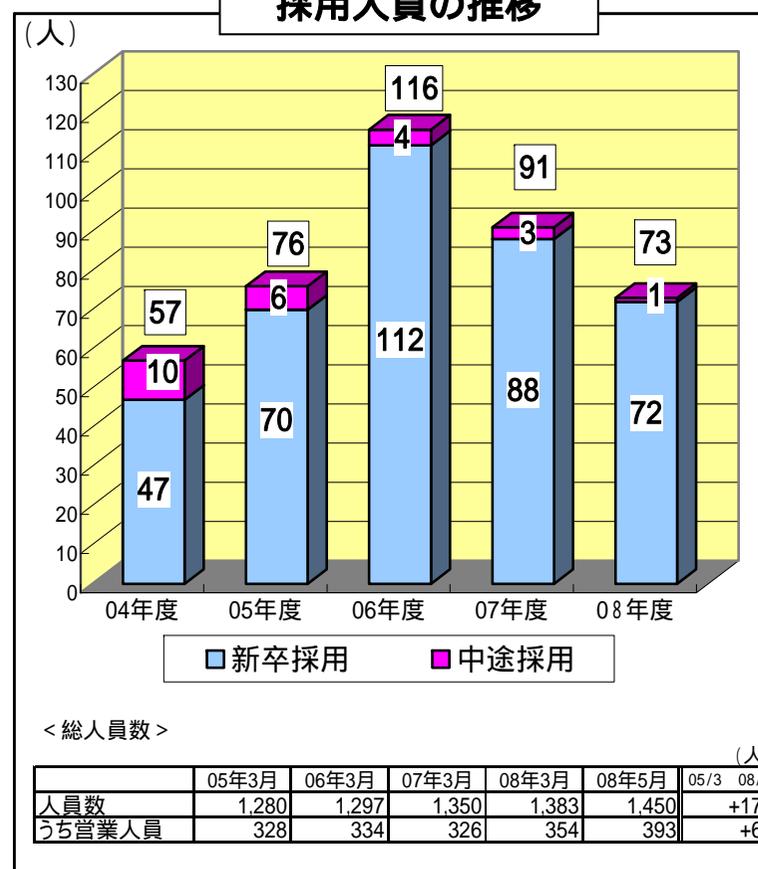
7. 経費の状況

人員増強を背景に経費は毎年増加
戦力強化に向けた積極的な人材確保に目処

経費の推移

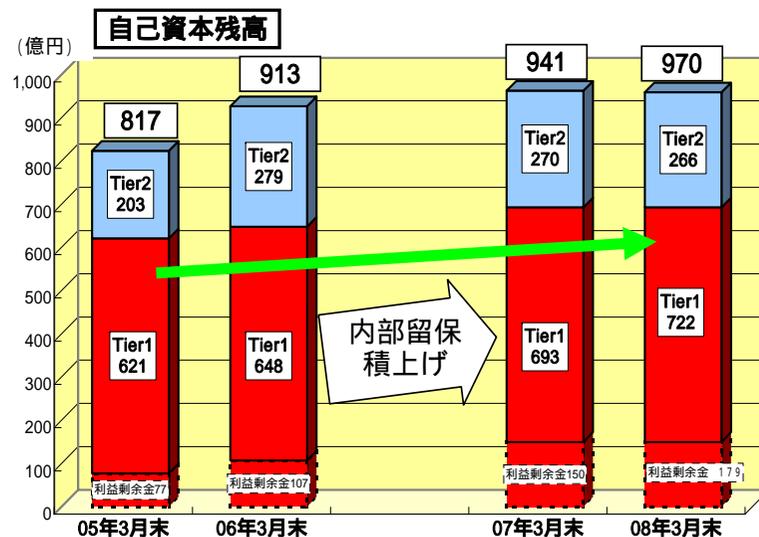


採用人員の推移



8. バーゼル への対応

Tier1比率は内部留保の積上げにより上昇するも、自己資本比率はリスクアセットの増加により微減
アウトライアー基準値は4.9%と引続き低水準



	05/3末	06/3末	07/3末	08/3末
自己資本比率	9.06%	9.55%	10.00%	9.95%
Tier 比率	6.88%	6.77%	7.36%	7.41%
自己資本総額	817	913	941	970
うち基本的項目 (Tier)	621	648	693	722
(利益剰余金)	(77)	(107)	(150)	(179)
うち補完的項目 (Tier)	203	279	270	266
(劣後調達)の消却ほか)	(47)	(11)	(0)	(0)
リスクアセット	9,016	9,568	9,411	9,748
うち信用リスク	9,016	9,568	8,857	9,198
うちオペレーショナルリスク	-	-	554	550

(注) 信用リスクは標準的手法、オペレーショナルリスクは基礎的手法を採用

(アウトライアー基準値)	08年3月末 (単位: 億円)	
		前年比
経済価値の減少額 (99パーセンタイル値)	49	+ 3
自己資本 (Tier + Tier)	990	+ 26
アウトライアー基準値	4.9%	+ 0.1%

<ご参考>200bpvでの基準値: 8.2%

・ 第14次長計 “ひたむき中京・絆”計画

～ 第13次長計“ひたむき中京”計画の基本戦略を踏襲しつつ、よりお客様に満足頂けるサービスを一層充実することにより、新たな飛躍を実現 ～

1. 第13次長期経営計画の総括

人員増強などの経営資源の積極投入に見合うまでの収益増には至らず
 自己資本比率、不良債権比率は目標を達成し、経営基盤は安定

< 第13次長期経営計画 >

(名称) **“ひたむき中京”計画**
 (テーマ)
「お客さまが、“一番に相談したい銀行”を目指して」

(基本方針)
**飛躍に向けた土台づくり
 サービス業の原点への回帰
 営業力 / 営業基盤の再強化
 経営資源(人・物・金)の積極的投入**

(基本戦略)
**顧客接点の拡大
 顧客好感度の向上
 顧客相談力の向上**

	07年度目標	07年度実績	達成度
コア業務純益	90億円	78億円	×
役務収益比率	10%程度	8.9%	×
OHR	70%未満	72.6%	×
ROE	4%台	4.14%	
自己資本比率	9.5%程度	9.95%	
不良債権比率	3%台	3.85%	
期末人員数	1,320人	1,383人	-

07年度目標金利シナリオでは、07年10月に三回目の利上げを想定

利上げ見送りによる収益マイナス影響約3億円

2. 第14次長期経営計画～ 計画の名称・テーマ

第13次長期経営計画の基本的な戦略を踏襲しつつ、よりお客さまに満足いただけるサービスの提供に努めることで、引き続き「お客さまが“一番に相談したい銀行”」を目指す

名称	第14次長期経営計画(“ひたむき中京・絆”計画)
テーマ	「お客さまが“一番に相談したい銀行”」を目指して
期間	2008年4月～2011年3月(3年間)

- 第13次長期経営計画で積極的に投入した経営資源を基に、営業力・営業基盤の再強化による更なる飛躍を目指す
- お客さま、当行、地域とのリレーション(絆)を更に強化することにより、地域金融機関の原点ともいえるフェイス・トゥ・フェイスの営業を一層充実させる

第13次長計(“ひたむき中京”計画)
 (2005年4月～2008年3月)

「飛躍に向けた土台づくり」

- ・サービス業の原点への回帰
- ・営業力/営業基盤の再強化
- ・経営資源の積極投入



第14次長計(“ひたむき中京・絆”計画)
 (2008年4月～2011年3月)

“ひたむき中京”計画の基本戦略を踏襲しつつ、よりお客さまに満足いただけるサービスを一層充実することにより、新たな飛躍を実現

2. 第14次長期経営計画～

基本戦略と主な施策



お客さまをよく知り、お客さまの声にお応えし、満足していただくための様々な施策を展開し、
営業基盤の拡大と収益力の強化を目指す

< 基本戦略 >

お客さまをよく知ろう

お客さまとの接点を質・量とも拡大し、お客さまに対する理解を深め、課題を共有することで、ビジネスチャンスを発掘する

お客さまの声にお応えしよう

お客さまの情報の蓄積や行員のスキルや専門性を高めることで、お客さまの課題への対応力を強化する

お客さまに満足していただく

営業面の充実のみならず、コンプライアンスの徹底、事務品質の向上、地域社会への貢献を通じて、お客さまからの満足度を向上させる

< 主な施策 >

- お客さまとの絆強化プロジェクトの推進
- 渉外人員の増強
- 新渉外体制の導入

- 法人・個人別の専担体制の充実
- 住宅ローン推進体制の強化
- 情報開発機能の強化

- オールローカウンター、全自動貸金庫設置店舗の拡大
- 業務改善プロジェクトの推進
- コンプライアンス態勢の充実

3. 計数計画 ~ 計数目標

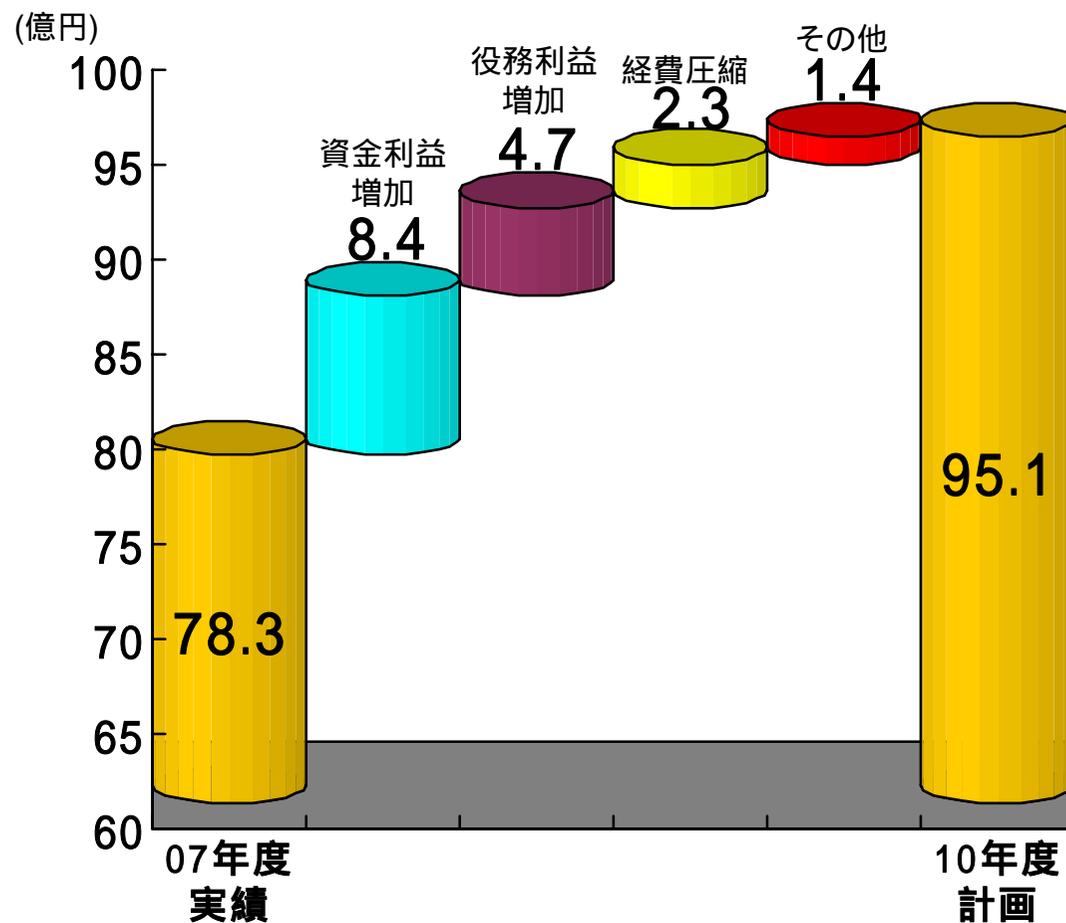
預貸ボリュームの拡大と役務収益の増強により、コア業務純益で95億円を計上できる体制を目指す

< 計数目標 >

	10年度計画	07年度実績
コア業務純益	95 億円	78 億円
当期純利益	45 億円	39 億円
自己資本比率	10%以上	9.95%
O H R	70%以下	72.6%
R O E	5%程度	4.14%

3. 計数計画 ~ 計数目標の構築

2010年度のコア業務純益95億円を達成するために以下の施策を実行



< 主な収益増加策 >

■資金利益増加

- 既存取引先のシェアアップ推進
- 未訪問先へのアプローチ
- 中小企業向け融資の増強

■役務利益増加

- 資産運用商品販売増強

■経費圧縮

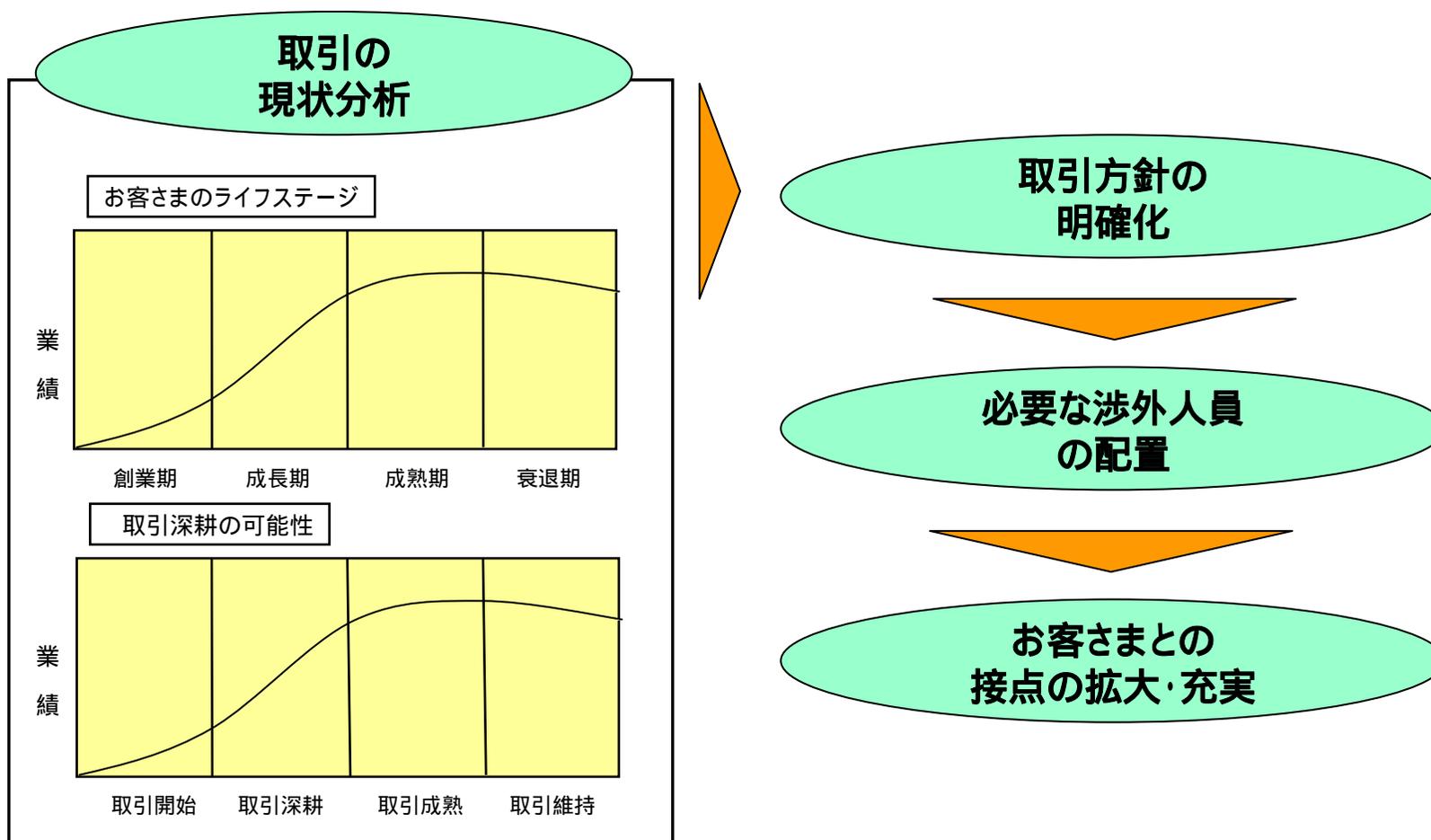
- 人件費、物件費の圧縮

金利シナリオの前提: 期間中の政策金利の変更は見込まず

4. 主要テーマ

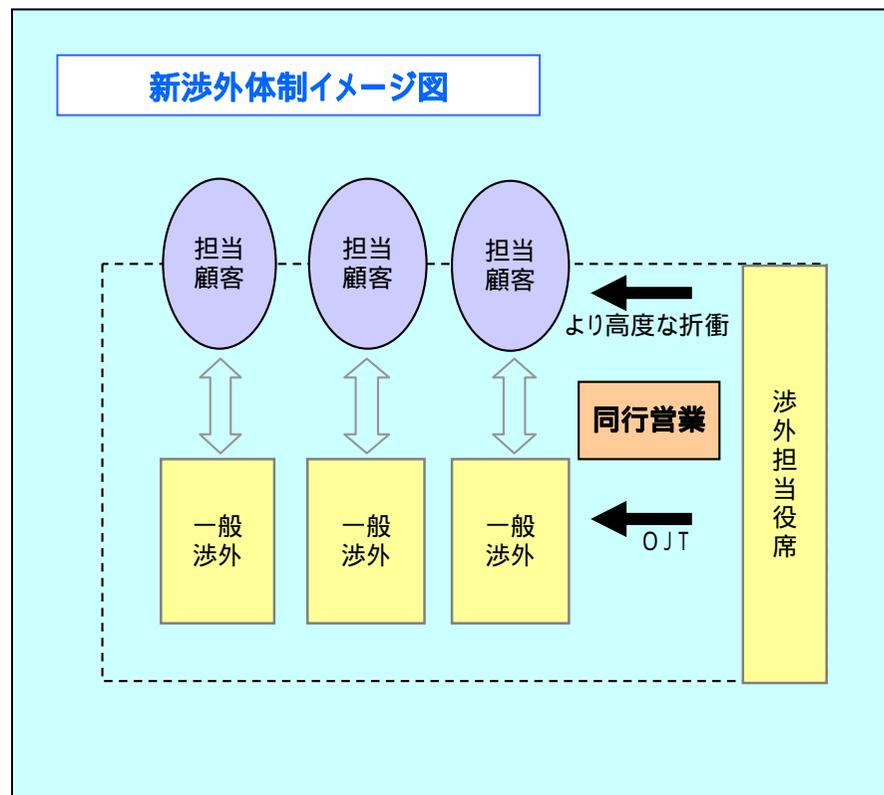
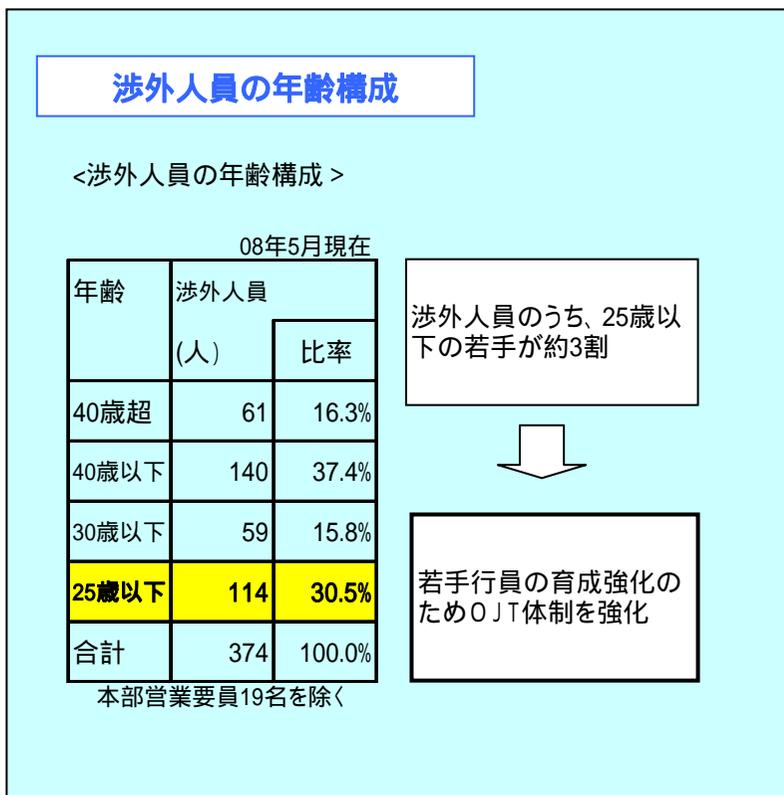
～ お客さまとの絆強化プロジェクトの推進

お客さまのライフステージと取引深耕の可能性を十分に把握・認識し、取引方針の明確化とそれに伴った渉外人員の配置を行うことで、お客さまとの接点の拡大・充実を図っていく



4. 主要テーマ ～ 新渉外体制の導入

渉外担当役席の同行営業を柱としたマネジメント業務の強化を通じ、お客さまとの接点の強化と若手を主体とした渉外担当者の育成強化を行っていく



4. 主要テーマ

～ 情報開発機能の強化 / 相談機能・CSの向上

地域社会への貢献のため、取引先支援のための情報開発機能の強化・充実を図っていく
 オールローカウンター、全自動貸金庫設置店舗の拡大による相談機能・CSの向上を図る

情報開発機能の強化

これまでの実績				
項目		05年度	06年度	07年度
創業支援パッケージ	提案件数	20	96	144
	成約件数	2	39	31
ビジネスマッチング	紹介件数	370	225	375
	成約件数	18	11	37
財務診断サービスの提供	提供先数	117	148	287
再生ランクアップ先	ランクアップ先数	24	13	16
事業承継支援先	対応件数	-	63	100
私募債発行支援	件数	48	40	47
	取組額(億円)	50	53	52
ノンリコースローンの実績	件数	5	2	2
	取組額(億円)	76	14	91
シ・ローンアレンジメント実績	件数	4	4	4
	取組額(億円)	34	38	94

相談機能・CSの向上

店舗改装の実施

- ・お客さまへのおもてなし、相談機能の充実と、利便性向上を狙いとして、06年度以降、オールローカウンター化と17時まで利用可能な全自動貸金庫設置店舗への改装をスタート
- ・07年度までに5ヶ店、14次長計期間中には15ヶ店の改装予定

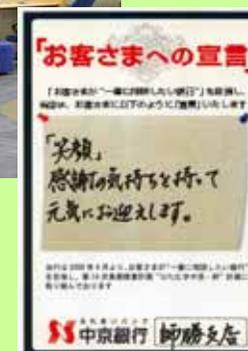
お客さまへの宣言

- ・全営業店、全行員が、自ら考えたCS向上テーマを「お客さまへの宣言」としてポスター、ワッペンへ記入し、掲示、着用する

< オールローカウンター店舗 >

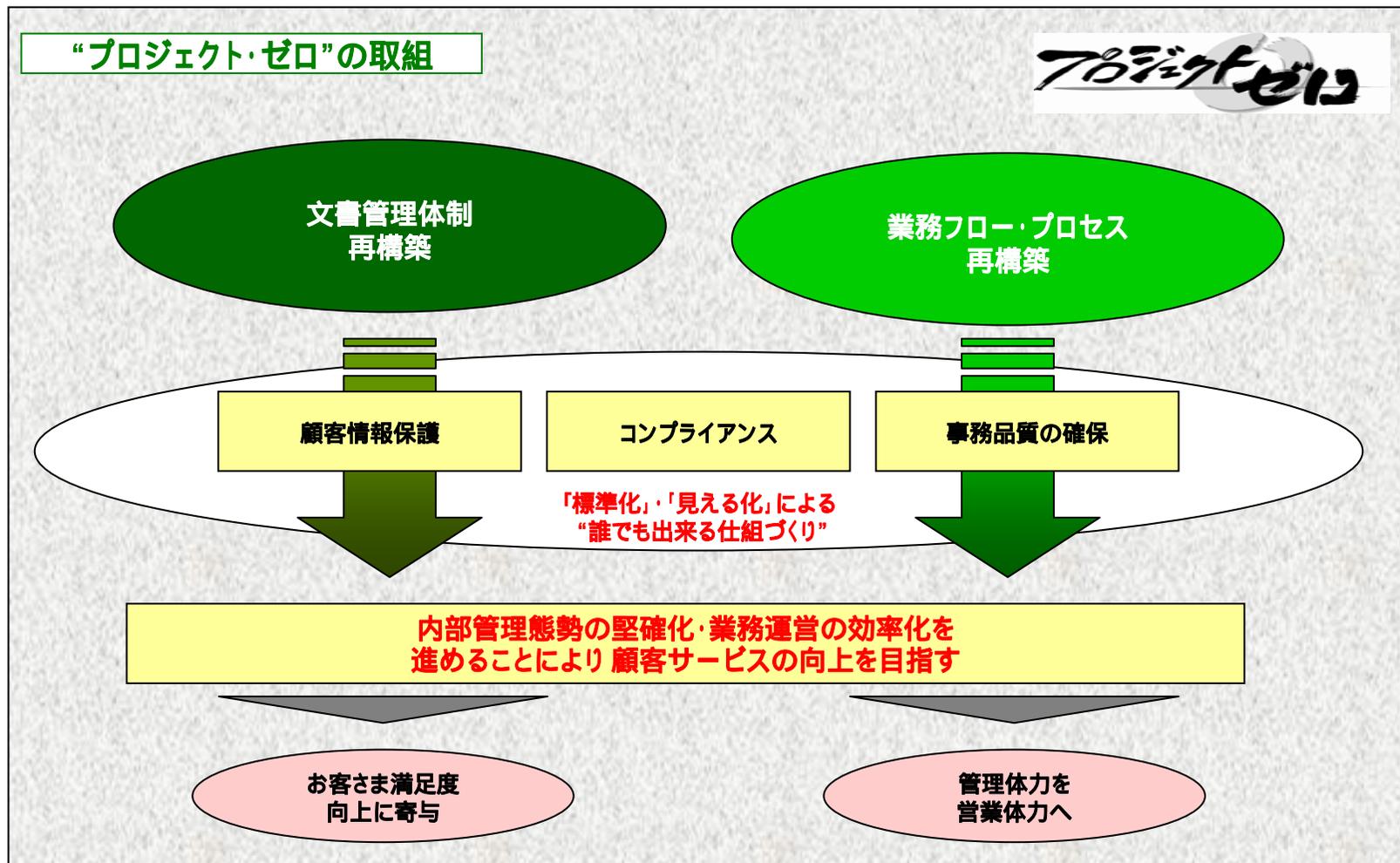


< 「お客さまへの宣言」ポスター >



4. 主要テーマ ～ 業務改善プロジェクト

業務改善プロジェクト(“プロジェクト・ゼロ”)の推進による、サービス品質の向上を目指す



4. 主要テーマ

～ 業務改善プロジェクト

「帳票の見える化」と「環境にも配慮した文書管理体制の構築」



お客さまには記入しやすく、行員には処理しやすい帳票の設計

・手順・チェックポイント表示でCS、事務品質の向上へ

100%紙製チューブファイルをコクヨS&Tと共同で新たに開発

・ファイルごと廃棄でき、情報の散逸防止と処理時間が軽減
 ・リサイクルで環境負荷にも配慮

お客さま記入欄は番号と縦一列でわかりやすく

株式会社中京銀行 御中
 自動送金サービス依頼書

1.ご依頼日 年 月 日
 2.おところ 〒□□□□-□□□□ お電話 □□□□-□□□□
 3.フリガナ おなまえ

私・当社名義の預金口座から次の金額を口座振替により引落し、私・当社の指定した受入先にて下記事項確認のうえ依頼します。

5.お申込区分 (印) **新規** **変更** **解約**
 ・毎月一定額をご希望の場合は、6～12の項目をご記入ください。
 ・送金月指定、月ごとの送金額指定をご希望の場合は、6～8、10～11
 にご記入ください。

6.引落指定口座... 取引店名 科目(印) 口座番号

< 業務別に背ラベルを色分けして保管 >



< 100%紙製チューブファイル >



後工程を明示

行員のチェックポイントを明示

5.この取扱いについて万一紛議が生ずるも貴行には迷惑をかせません

銀行使用欄
 変更・解約の場合は、原契約をお客さまに十分確認いただき記入すること

センター登録番号	照合
----------	----

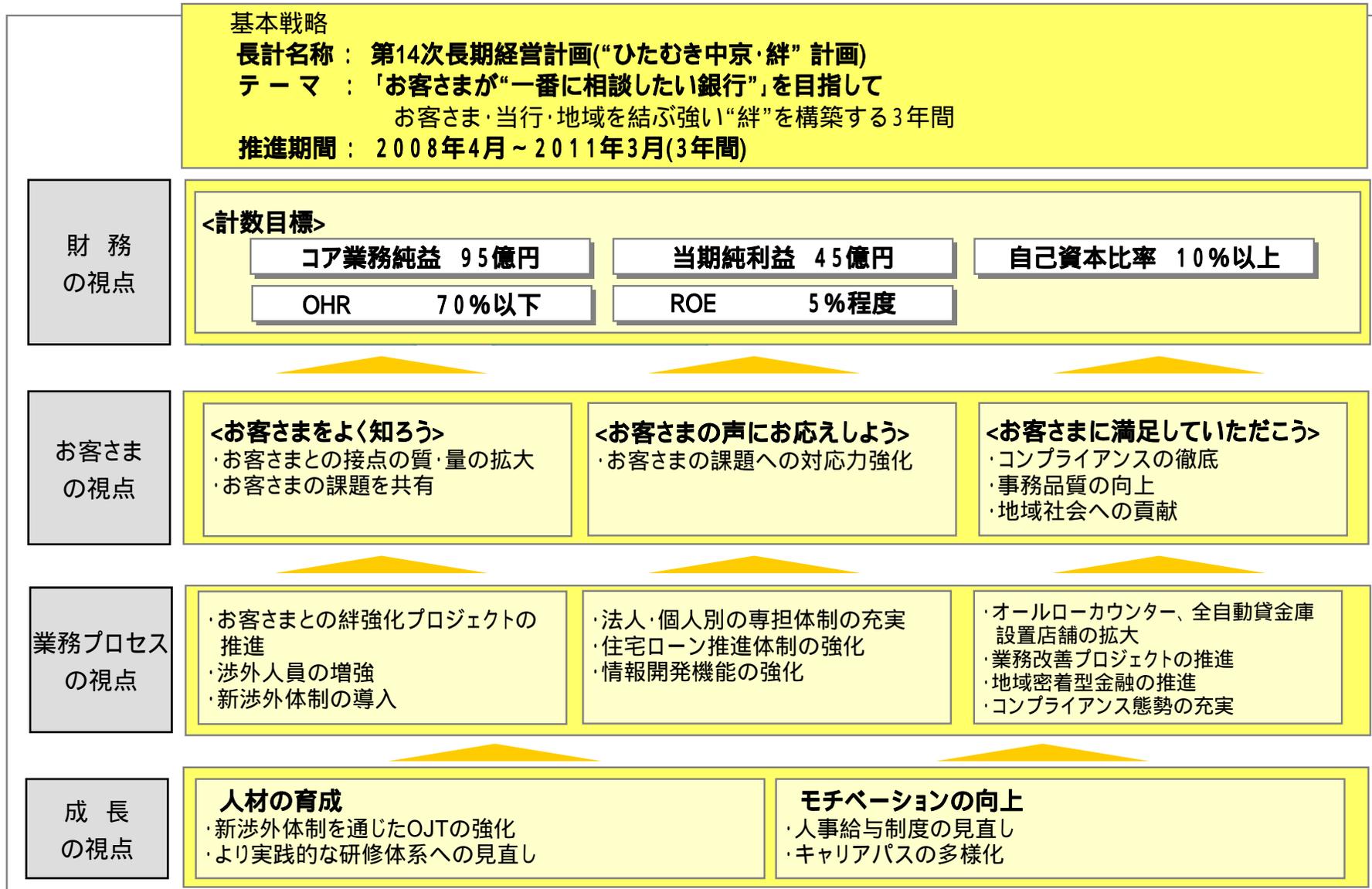
照合: 依頼内容と報告記録を照合し、チェック後

受付	印鑑照合	報告(共通-5470)	記録	照合	証印
		コード: 新規-3111			
		変更-3115			
		解約-3119			

裏面の事務フロー参照
 1/2 D10-046 (06.5) 請求単位(1冊) 保存10年(解約の翌年度4月1日より) 保管:金庫内、専用ファイル 廃棄:溶解 ファイル番号---

本帳票は説明用見本です

5. 戦略マップ



ご参考資料

当行の沿革・プロフィール

沿 革	プロフィール (08年3月末)																																																																																		
1943: 三重県津市に八紘無尽設立 1945: 本店を三重県名張市に移転 1951: 太道無尽を経て太道相互銀行へ 商号変更 1964: 本店を名古屋市に移転 1969: 名古屋信用金庫と合併、中京相銀行 へ商号変更。現所在地に本店を移転 1970: 名証1部上場 1989: 普銀転換、中京銀行へ商号変更 東証1部上場 2002: 不良債権、有価証券減損の抜本処理を 実施 UFJ銀行(現三菱東京UFJ銀行)による 資本増強、UFJ銀行の持分法適用関連 会社(持株比率39.2%)に 2003: 創立60周年 2008: “ひたむき中京・絆”計画(第14次長期 経営計画)スタート	<div style="text-align: right;">(店)</div> <table border="1"> <caption>地区別店舗数</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">地区</th> <th colspan="2">愛知県</th> <th rowspan="2">三重県</th> <th rowspan="2">その他</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th colspan="2">名古屋市内</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般店舗</td> <td>61</td> <td>33</td> <td>17</td> <td>7</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>出張所</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>69</td> <td>40</td> <td>18</td> <td>7</td> <td>94</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right;">(箇所)</div> <table border="1"> <caption>店舗外ATM設置状況</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">地区</th> <th colspan="2">愛知県</th> <th rowspan="2">三重県</th> <th rowspan="2">その他</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th colspan="2">名古屋市内</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>店舗外ATM</td> <td>42</td> <td>24</td> <td>14</td> <td>1</td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right;">(人)</div> <table border="1"> <caption>従業員</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>男性</th> <th>女性</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>従業員数</td> <td>1,054</td> <td>329</td> <td>1,383</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right;">(億円)</div> <table border="1"> <caption>預貸ボリューム</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">預金</th> <th colspan="2">地区構成</th> </tr> <tr> <th>愛知県</th> <th>三重県</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15,054</td> <td>81.0%</td> <td>14.4%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">貸出金</th> <th colspan="2">地区構成</th> </tr> <tr> <th>愛知県</th> <th>三重県</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11,851</td> <td>72.8%</td> <td>15.3%</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right;">(千株、%)</div> <table border="1"> <caption>大株主の構成</caption> <thead> <tr> <th>氏名</th> <th>所有株式数</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>株式会社三菱東京UFJ銀行</td> <td>85,343</td> <td>39.24%</td> </tr> <tr> <td>日本トラスティ・サービス信託銀行 信託口4</td> <td>10,129</td> <td>4.65%</td> </tr> <tr> <td>日本トラスティ・サービス信託銀行 信託口</td> <td>7,784</td> <td>3.57%</td> </tr> <tr> <td>中京銀行従業員持株会</td> <td>4,853</td> <td>2.23%</td> </tr> <tr> <td>大同生命保険株式会社</td> <td>4,700</td> <td>2.16%</td> </tr> </tbody> </table>	地区	愛知県		三重県	その他	合計	名古屋市内		一般店舗	61	33	17	7	85	出張所	8	7	1	0	9	計	69	40	18	7	94	地区	愛知県		三重県	その他	合計	名古屋市内		店舗外ATM	42	24	14	1	57		男性	女性	計	従業員数	1,054	329	1,383	預金	地区構成		愛知県	三重県	15,054	81.0%	14.4%	貸出金	地区構成		愛知県	三重県	11,851	72.8%	15.3%	氏名	所有株式数	比率	株式会社三菱東京UFJ銀行	85,343	39.24%	日本トラスティ・サービス信託銀行 信託口4	10,129	4.65%	日本トラスティ・サービス信託銀行 信託口	7,784	3.57%	中京銀行従業員持株会	4,853	2.23%	大同生命保険株式会社	4,700	2.16%
地区	愛知県		三重県	その他				合計																																																																											
	名古屋市内																																																																																		
一般店舗	61	33	17	7	85																																																																														
出張所	8	7	1	0	9																																																																														
計	69	40	18	7	94																																																																														
地区	愛知県		三重県	その他	合計																																																																														
	名古屋市内																																																																																		
店舗外ATM	42	24	14	1	57																																																																														
	男性	女性	計																																																																																
従業員数	1,054	329	1,383																																																																																
預金	地区構成																																																																																		
	愛知県	三重県																																																																																	
15,054	81.0%	14.4%																																																																																	
貸出金	地区構成																																																																																		
	愛知県	三重県																																																																																	
11,851	72.8%	15.3%																																																																																	
氏名	所有株式数	比率																																																																																	
株式会社三菱東京UFJ銀行	85,343	39.24%																																																																																	
日本トラスティ・サービス信託銀行 信託口4	10,129	4.65%																																																																																	
日本トラスティ・サービス信託銀行 信託口	7,784	3.57%																																																																																	
中京銀行従業員持株会	4,853	2.23%																																																																																	
大同生命保険株式会社	4,700	2.16%																																																																																	

当行の収益実績

(億円、%)

	03年度 実績	04年度 実績	05年度 実績	06年度 実績	07年度 実績
業務粗利益	316	297	287	275	281
コア業務粗利益	308	295	289	284	286
資金利益	283	271	265	259	259
役務取引等損益	24	24	27	26	25
経費	202	199	202	205	208
人件費	117	112	113	116	118
物件費	75	75	78	78	79
コア業務純益	106	96	86	78	78
当期純利益	30	46	39	56	39
総資産(平残)	15,013	15,061	15,370	15,796	16,004
貸出金	11,311	11,131	11,215	11,582	11,549
総負債(平残)	14,319	14,388	14,654	15,038	15,197
預金	13,824	13,872	14,100	14,423	14,626
OHR(経費/業務粗利)	63.9	66.9	70.4	74.5	73.8
修正OHR(経費/コア業務粗利)	65.6	67.4	70.0	72.2	72.6
ROA(コア業務純/総資産)	0.70	0.63	0.56	0.49	0.48
ROA(当期純利益/総資産)	0.19	0.30	0.25	0.35	0.24

主要勘定残高および利回り

(平残 億円、収入・支出額 百万円)

	07年度			前年度比		
	平残	利回	収入額	平残	利回	収入額
貸出金	11,549	2.15%	24,942	33	0.20%	2,242
商品有価証券	6	1.27%	7	0	0.14%	0
金銭の信託	---	---	---	---	---	---
有価証券	3,452	1.60%	5,554	58	-0.10%	229
国債	1,197	1.03%	1,237	104	0.01%	118
地方債	278	1.43%	399	46	0.02%	71
社債	819	1.37%	1,126	27	-0.03%	16
株式	251	2.74%	691	14	-0.05%	52
外国証券	688	1.96%	1,351	125	-0.01%	252
その他	218	3.42%	748	22	-1.05%	130
コールローン	294	0.70%	207	172	0.02%	124
買入金銭債権	7	1.01%	7	2	0.34%	1
預け金 (無利息分を除く)	9	0.13%	1	1	0.07%	1
譲渡性預け金	---	---	---	---	---	---
外国為替	70	---	278	4	---	6
その他	---	---	435	---	---	81
運用勘定計	15,395	2.04%	31,436	189	0.11%	2,063
資金運用勘定計	15,395	2.04%	31,436	189	0.11%	2,063

	07年度			前年度比		
	平残	利回	支出額	平残	利回	支出額
預金	14,626	0.34%	5,012	203	0.15%	2,159
円貨	14,475	0.29%	4,324	225	0.15%	2,316
外貨	151	4.55%	688	22	-0.32%	157
譲渡性預金	0	---	0	1	---	0
コールマネー	0	---	0	13	---	1
売渡手形	---	---	---	---	---	---
借入金	0	---	0	0	---	1
外国為替	0	---	0	0	---	0
社債	200	1.67%	334	0	0.01%	1
その他	10	---	110	48	---	76
調達勘定計	14,837	0.36%	5,458	139	0.14%	2,083
(うち金銭の信託 運用見合額)	---	---	---	---	---	---
資金調達勘定計	14,837	0.36%	5,458	139	0.14%	2,083

資産・負債残高の推移

(億円)

	04年3月末	05年3月末	06年3月末	07年3月末	08年3月末	前期比
現金・預け金	928	593	391	528	520	8
有価証券	2,946	3,380	3,825	3,773	3,700	73
貸出金	11,575	11,484	11,749	11,797	11,851	54
動産不動産	260	251	239	-	-	-
固定資産	-	-	-	228	227	1
貸倒引当金	343	270	215	160	131	29
資産の部合計	15,771	15,831	16,430	16,476	16,446	30

	04年3月末	05年3月末	06年3月末	07年3月末	08年3月末	前期比
預金	14,459	14,391	14,631	14,882	15,054	172
借入金	115	85	55	-	-	-
社債	-	100	200	200	200	0
繰延税金負債	-	39	121	84	8	76
負債の部合計	14,989	14,997	15,486	15,461	15,547	86
資本金	318	318	318	318	318	0
資本剰余金	231	231	231	231	231	0
利益剰余金	41	77	107	150	179	29
土地再評価差額金	55	53	52	52	51	1
その他有価証券評価差額金	135	153	235	270	121	149
資本の部合計	782	834	944	1,015	899	116

08年度業績見込み

預貸金ボリュームの確保と役務取引による粗利益の増強を狙う

但し、人件費などの経費削減効果は次年度以降となり、コア業務純益は横ばい

当期純利益は、法人税の税負担の軽減を織り込まず減益を見込む

【損益】		(単位:億円)		
		07年度 実績	08年度 見込み	前年対比
コア業務粗利益		286	289	3
	資金利益	259	260	1
	役務取引等損益	25	26	1
経費		208	211	3
	人件費	118	118	0
	物件費	79	81	2
コア業務純益		78	78	0
経常利益		53	54	1
当期純利益		39	35	4
信用コスト		18	18	0

【ボリューム・利回り】		(単位:億円、%)		
		07年度	08年度	前年対比
貸出金	(平残)	11,549	11,753	204
	(利回り)	2.15%	2.14%	0.01%
預金	(平残)	14,626	14,888	262
	(利回り)	0.34%	0.36%	0.02%
有価証券	(平残)	3,452	3,620	168
	(利回り)	1.60%	1.66%	0.06%

08年度業績予想のポイント

<金利シナリオ> 金利横ばいを見込む

<預貸金> 貸出金、預金とも年率2%程度のボリューム増強を見込む

<有価証券> 債券の購入により、残高の増加を見込む

<役務取引> 資産運用商品販売、シ・ローン推進による手数料増強を狙う

<経費> 人件費 横ばい
物件費 店舗改装コストなどによる増加を見込む

<信用コスト> 前年並みの18億円を見込む

当地区における当行のシェア

東海三県下の業態別預貸金残高、シェア

(上段:残高、下段:シェア) (億円:%)

	預金		貸出金	
	2001年3月	2008年3月	2001年3月	2008年3月
都銀等	188,157 36.1	204,932 35.5	134,077 37.7	91,340 28.2
地元地銀 (4行)	104,433 20.1	115,838 20.1	69,197 19.5	76,944 23.7
地元第二 地銀(5行)	73,805 14.2	83,658 14.5	54,296 15.3	55,988 17.3
信用金庫 (27庫)	146,505 28.1	165,622 28.7	87,588 24.6	89,364 27.5
その他	7,950 1.5	7,186 1.2	10,269 2.9	10,839 3.3
総合計	520,850	577,236	355,428	324,475

東海三県:愛知・岐阜・三重

地元地銀:大垣共立、十六、百五、三重

地元第二地銀:当行、名古屋、愛知、岐阜、第三

(出典)日銀名古屋支店

地域別預金・貸出金残高とシェア

(億円)

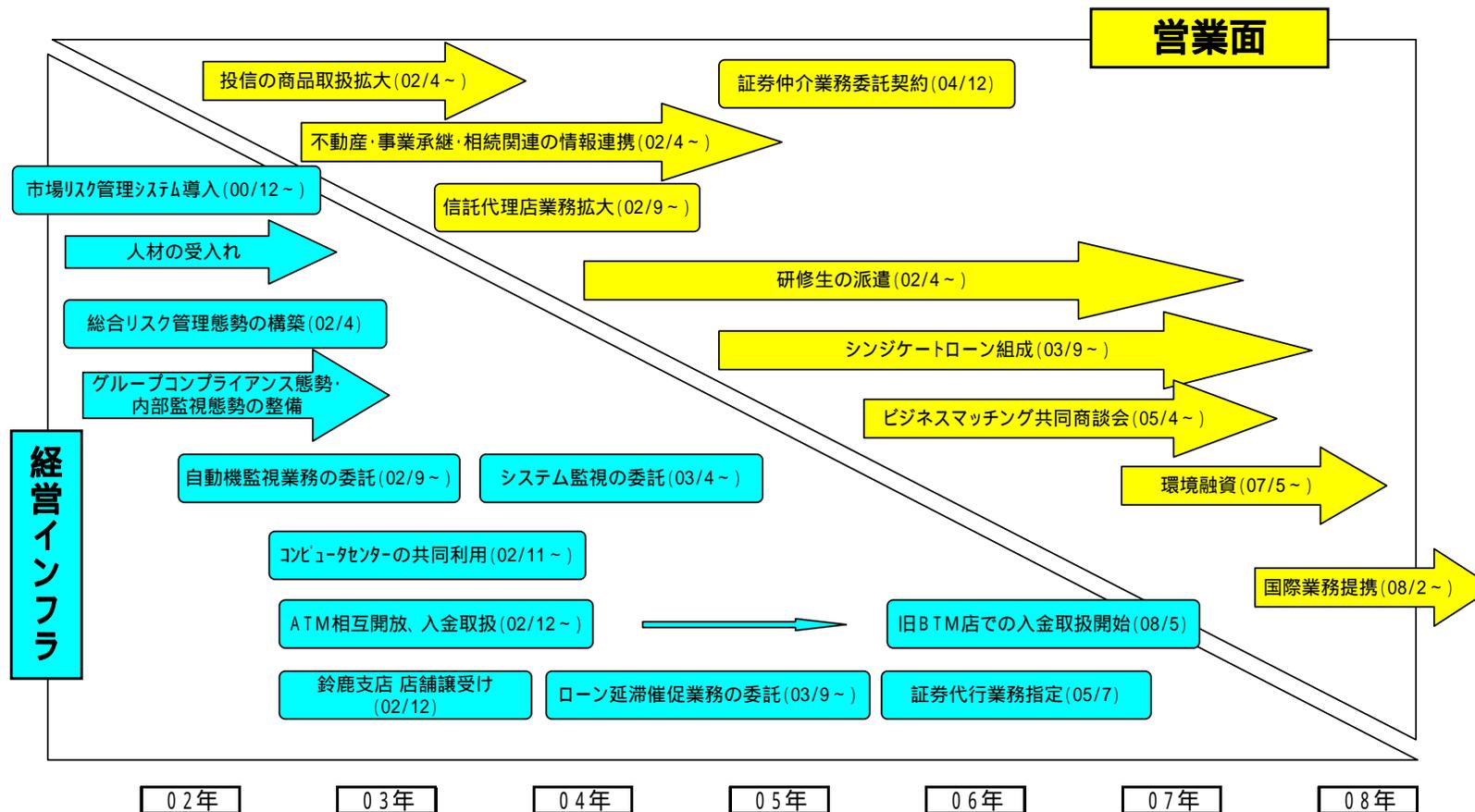
		預金		貸出金	
		07/3末	02/3末比	07/3末	02/3末比
愛知県	中京	11,960	1,376	8,522	300
	シェア	2.9%	0.1%	3.5%	0.2%
	愛知県全体	417,417	35,642	240,094	8,101
うち 名古屋 市	中京	7,865	784	5,895	229
	シェア	3.8%	0.0%	4.4%	0.5%
	名古屋市全体	207,524	19,907	135,346	13,265
三重県	中京	2,191	152	1,962	211
	シェア	2.8%	0.4%	4.7%	0.6%
	三重県全体	78,532	5,213	41,510	1,023
奈良県	中京	457	130	348	140
	シェア	0.7%	0.3%	1.1%	0.6%
	奈良県全体	66,495	5,591	31,764	2,161

農協、郵貯は含まず

(出典)金融ジャーナル、中部経済新聞、他

MUFGとの連携

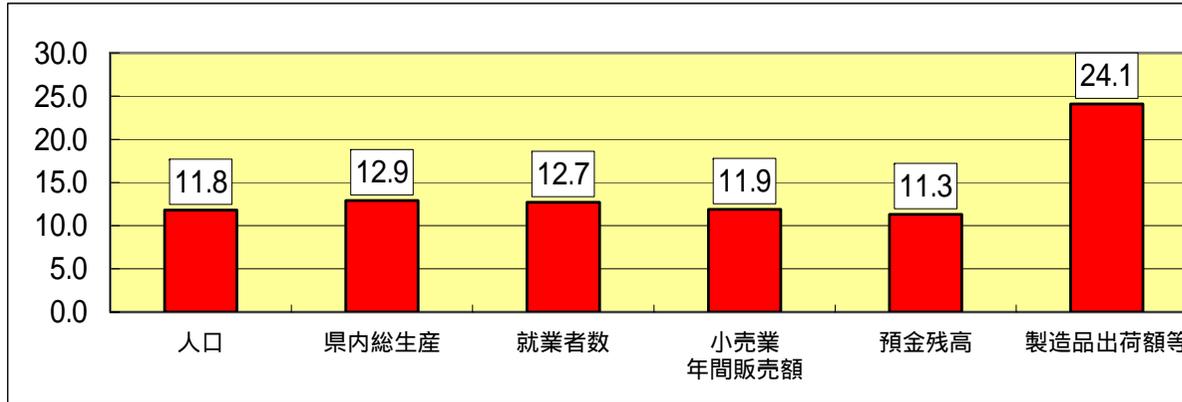
経営インフラに関する体制整備は着実に進行
営業面についてはMUFGのノウハウを活用しお客さまのニーズに対応



東海地区の経済規模

主要経済指標における東海地区経済の全国に対する比率

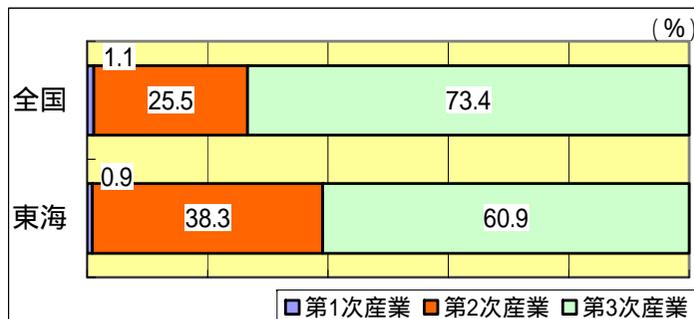
(%)



内閣府「平成17年度県民経済計算」ほか
基準日:平成17年度末

愛知県の製造品出荷額は
30年連続で日本一

総生産額の産業別構成比
(平成17年度)



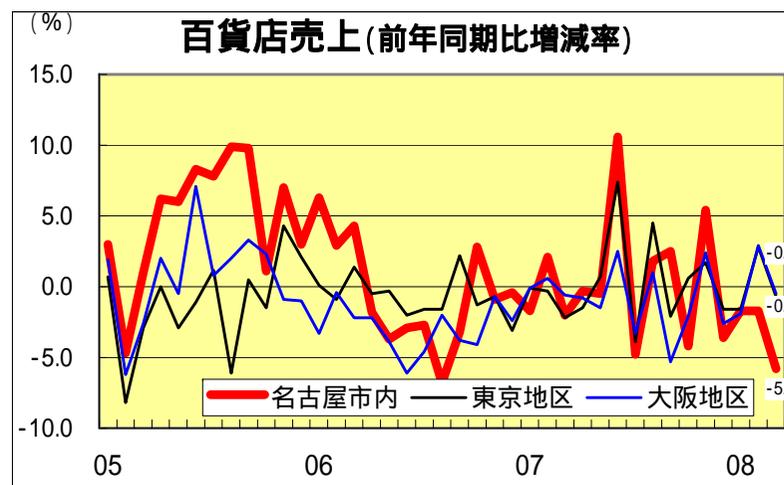
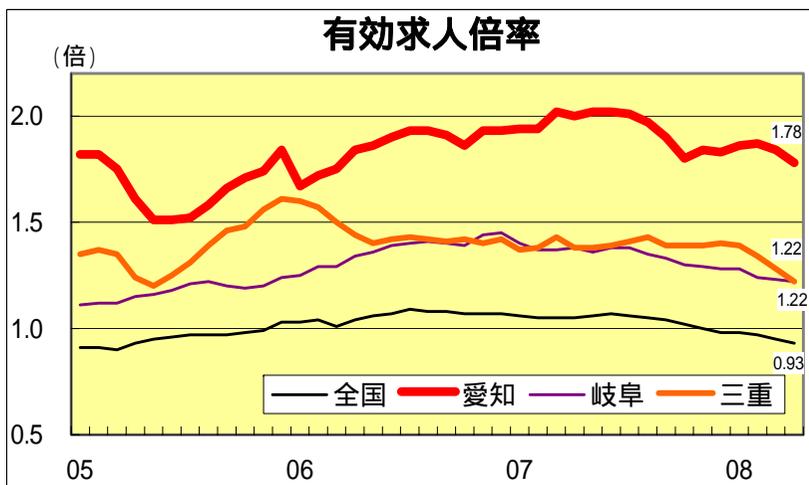
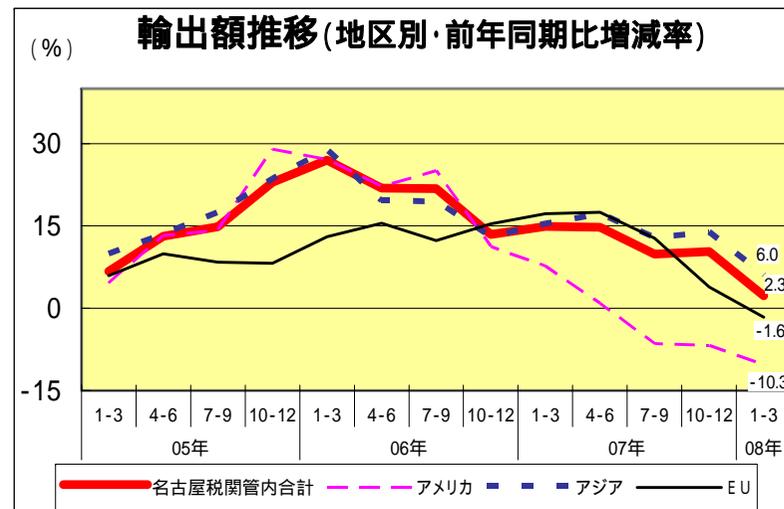
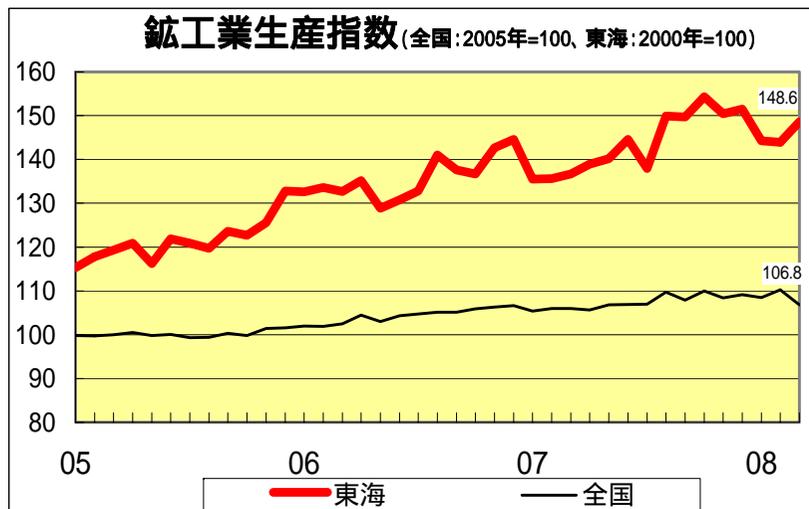
(「平成17年度 県民経済計算」(内閣府)より)

主要製品の生産シェア、輸出比率
(平成18年度)

機械	(%)	
	全国シェア	輸出比率
乗用車	55	52
オートバイ	73	78
工作機械	47	57

繊維の全国シェアは前々年データ
(出典)平成19年6月「東海地域の経済構造」(東海財務局)
東海地区:愛知県、三重県、岐阜県、静岡県

最近の動向



本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化等により、異なる可能性があることにご留意下さい。

<ご照会先>

中京銀行 総合企画部 企画グループ

担当 早川、水谷

TEL (052)249-1613

FAX (052)252-5921

URL <http://www.chukyo-bank.co.jp/>